

過越の食事とゲッセマネ

2026年3月15日

ルカの福音書 22章1～34節
マタイの福音書 26章36～46節

I. 過越の食事 ⇒ 主の晩餐（聖餐）

(1)ユダヤの三大祭りのひとつ

モーセに率いられてエジプトを脱出した記念、奇跡的な偉大な神の御業
奴隷の国から、紅海を渡り、約束の地へ
たねなしパン、子羊の肉、苦菜、ぶどう酒

(2)ほふられる子羊 = 人間の罪を贖うメシアの予型・ひな型
傷がない1才の雄 世の罪を取り除く神の小羊

ニザンの月の14日 血は門柱とかもいに塗る→後代祭壇、土台に振り掛けた

(3)十字架の前夜、イエスと弟子たちが囲んだ「より大いなる過越の晩餐」

II. 主の晩餐（聖餐）の制定のことば

(1)これはあなたがたのためのわたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。
コリントI 11・24

代

償 これはあなたがたのために与えるわたしのからだです。 ルカ22・19

の 取って食べなさい。これはわたしのからだです。マタイ26・26

死

(2)この杯はわたしの血による新しい契約です。これを飲むたびにわたしを覚えて、
これを行いなさい。 コリントI 11・25 ⅴ 22・20

罪を赦すために多くの人のために流されるものです。マタイ26・28、ⅴ 14・24

その日、わたしはイスラエルとユダの家とに新しい契約を結ぶ。ⅴ 31・31~34

(3)わたしの父の御国で、あなたがたとともに飲むその日までは、わたしはもはや、
ぶどうの実で作ったものを飲むことはありません。 マタイ26・29 ⅴ 22・18

十字架、復活、昇天、着座、再臨、栄光の御国への広がり

※(4)このパンを食べ、この杯を飲むたびに主が来られるまで、主の死を告げ知らせる
コリントI 11・26

見えるみことば、沈黙による宣教

- ※(5)ユダは居たが、途中で退席、主の晩餐をともにしていない
彼は十二弟子のひとりであったが、真の信仰者ではなかった。
イエスを敵対者に売り渡す計画を実行するため、夜の闇の中に出て行く

Ⅲ. ゲッセマネの祈り

最後の晩餐の直後、ゲッセマネの園に移動

(1)イエスが最も孤独で悲しみと恐れに満たされていた時

(2)ペテロ、ヨハネ、ヤコブをそばに同伴

ここを離れないで、いっしょに目を覚ましていなさい

彼らは眠っていた

誘惑に陥らないように、目を覚まして、祈っていなさい

(3)3回父に祈られた

1回目：わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください
。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、
なさってください。

二回目：わが父よ。どうしても飲まずに済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころ

三回目 のとおりをなさってください、

わが父：まだ父と御子は親密、十字架上：わが神、わが神、どうしてわたしを
お見捨てになったのですか

罪人の贖いのために死ぬことは分かっている、なぜ恐れ、ためられるか
罪を知らない聖い方が、罪の塊として死の罰を受ける恐怖
真の人間でもあられた ∴喜怒哀楽を味わわれた

(4)父に委ねる

自分の思いや考え、感情は確かに存在する

それに固執することを止めて、父にお任せする（自分を父に従えていく）

∴ 父はすべてを知っておられる

みこころのみ、最善のみをなさる

時と方法を定め、成就なさる